

区内で初めて確認された「クビアカツヤカミキリ」について

1. クビアカツヤカミキリとは

人体に害を及ぼすことはないが、サクラやウメ、モモなどに寄生して食害し枯らしてしまう特定外来生物。中国、朝鮮半島等に分布している昆虫で、物流に伴って日本国内に侵入したものと考えられている。

2. 国内への侵入

平成24年に愛知県で初めて確認され、東京都では平成27年に福生市とあきる野市で確認された。令和3年3月末現在11都府県で確認され、全国で被害が拡大している。

区部では令和2年に足立区、令和3年に江東区で被害が確認された。区内では特にサクラの被害が多く、発見が遅れて拡散してしまうと樹木を伐採せざるを得ない場合もある。

3. 区内での発見の経緯

令和3年6月17日（木）、通行人が大崎駅西口付近（民有地）で成虫1匹を発見し、東京都環境局に通報した。発見された成虫は通報者により捕殺された。同日、東京都環境局および区環境課職員が現地確認。周辺に成虫および樹木への被害がないことを確認した。

4. 区の対応状況について

○注意喚起

- ・公式ホームページ、ツイッター、しなメールによる周知。
- ・広報しながわ（8月1日号予定）掲載。
- ・全庁の職員むけにインフォメーションによる周知。
- ・公園課、庶務課、道路課の所管する樹木について状況確認を実施。
- ・区立小中学校に注意喚起チラシの掲示を依頼。
- ・発見場所周辺の施設管理者に注意喚起を実施。

○東京都との連携

- ・都道、都立公園等の都の施設については東京都が状況確認を実施。樹木被害発生時には技術的支援を依頼する。

○近隣区との情報交換

- ・江東区、目黒区、大田区と情報交換。広域かつ継続的な警戒を実施する。